

向山型国語“教材研究”全体構造図

TOSS熊本 椿原正和

tsubakihara.masakazu@toss2.com



向山洋一氏 教育思想

すぐれた教育思想—それは、すべての子どもの可能性を信頼し、力に依拠して自分自身の絶え間ない反省と修業の上に、**すべての子どもに生きていく勇気と生きぬいていく知識と知恵と技を育てていこうとする教師の固い決意**である。教師は一人残らず、**すべての子どもの可能性を信頼**すべきである。教師は一人残らず、**すべての子どもの個性、力量に依拠**すべきである。教師は**すべての責任をまず自分自身に帰す**べきである。教師は常に謙虚に学び続けるべきである。教師は一人残らず、**すべての子どもに生きる勇気を与えなくてはならない**。教師は一人残らず、**すべての子どもに知識と知恵と技を育てなくてはならない**。このことを、**自分の心の中で固く決意しそのための努力をしている人こそ、すぐれた教育思想の持ち主**である。

向山型

「向山型」とは、「**できない子をできるようにする授業の工夫**」から生まれた。しかも同時に、「**できる子も満足させなければならない**」という条件がある。更に、「**子どもが熱中して、知的な満足にひたる**」ことも条件だ。それを、満足させるのが、向山型だ。

向山型 授業論

【向山型授業の特徴】 おとなしい子、やんちゃな子が正解し、優等生が間違えう発問	授業は活動において作られるのではなく、 思考によって作られる のだ。	「Think Think そして Think だ」 考えぬかなければ、知的な授業はできない のだ。	授業では「 あれども見えず 」が「見えるようになる学習活動」が必要だ。	授業中に子どもが示すかすかな 変化、髪の毛一筋ほどの変化をとらえる ことができなければ、すぐれた授業はできない。	子どもの事実から出発するのです。子どもが書いたことの何を取り上げるか。それが 授業として値打ちのあること だと一瞬で判断する 力がないと 討論は組織できない。
--	---	--	--	---	---

向山型国語の思想

すべての授業が、**討論の状態になること**にあこがれる。それは、討論が、対等な立場に立つ知的追求作業だからである。「**答えが分裂する**」「**すぐには正答が出てこない**」「**いろいろと理屈をつけられる**」という問いが大切なのである。このようなとき「**できる子**」「**できない子**」という枠は取り払われる。

討論指導の原則

A：討論の授業の**原理**4原則
B：討論の授業の**基本条件**8項目
C：討論の授業**成立の条件**4項目
D：討論の授業のための**基礎体力**3項目

【討論のイメージ】ある問題について、**子どもたちが次々に論争し、教師は全く発言せず、子どもたちだけで論争が続けられ**

向山型国語 発問の特徴

1. 原則 ① 知覚語 で問え ② 選択させる言葉 で問え ③ 発見させる言葉 で問え	2. 検討させる内容 ① 一字 の検討(助詞等) ② 語句・文 の検討 ③ 解釈 の検討 ④ 作品構造 の検討	3. 特徴 ① 教材の「核」 を問う ② 立体的 に問う ③ 解釈を創造 させるように問う	4. すぐれた発問の資格 「 ゆれない発問 」「 何度言っても同じ言葉 になる発問」、これこそ「 すぐれた発問 」の資格がある。	5. さけるべき発問 ①すでに知っていることを延々と聞く ムダな発問 ②意味が不明(短く言い切れない・語尾が不明確・主語がない等)の ムリな発問 ③いちいち子どもの答に反応していて、中心からズレてしまう ムラのある発問
---	---	---	--	--

向山型国語の教材研究

シロートのうすっぺらな授業を乗り越える

【基礎】国語授業の**教養**をつむことだ。そのためには、**本をいっぱい読む**ことだ。

分析の原則	解釈の原則	方法論
<p>【教材を正確に読むために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教材を100回読む(音読) ②教材を視写する ③すべての言葉を辞書であたってみる ④100問は発問を考え、答も出す ⑤初出にあたる(本物を手に取る) ⑥分析批評の用語による分析 ⑦用例をたくさんあげてみる ⑧品詞分解をし、文法的に正確に読む ⑨映像化する 	<p>【教材を疑いながら読むために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教材に関する文献を10冊以上読む 時代背景/解釈の違い/論争点 教材のポイント/研究の到達点/その他 ②助詞をおきかえる (基礎日本語辞典を使いこなす) ③区切りによる解釈の違いを検討する (起承転結・二つに分けるなど) ④関連する作品にあたる ⑤曖昧さの原因を追及する 	<p>【中級の教材研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①列挙する ②組み合わせる ③反対から考える ④見当外れから考える ⑤本線を組み立てる ⑥バイパスを考える ⑦遙か昔から考える ⑧遙か未来から考える <p>※初級は“分析の原則”の①～④にあたる</p>

説明文

1. 語彙指導
辞書、英訳、画像、体験など
2. 正確な内容理解
①**指示語、接続語**
②**用語**の統一
主語・述語の対応
③**不備**の確認(書き下ろし)
④**視点**
3. 論理構造の理解
①**問い—答え**
②**段落内**
③**段落間(接続語)**
④**要約**

教材研究イメージ

ふるさとの木の葉の駅 授業の覚書き